

生駒市スポーツ振興基本計画取組達成評価

評価区分		
A	計画以上の成果が達成された施策	
B	概ね計画通りの成果が得られた施策	
C	計画通りの成果が得られなかつた施策	

資料No.1

評価	評価理由等	後期計画における今後の方向性
基本目標1 “個”に応じたスポーツ活動や参加機会を増やします		
計画の体系		
(1) ライフステージに応じたスポーツライフ		
① 子どものスポーツライフ	B アミリースポーツするどともに、総合型地域スポーツクラブの設置・支援を継続して行うことに応じたスポーツに触れるため。	「スポーツ基本計画」及び「奈良県スポーツ推進計画」にも定められており、今後も各年齢層に応じたスポーツの機会の提供を行いう必要があることから、継続して取り組む。
② 倘者のスポーツライフ		
③ 中高年のスポーツライフ		
④ 高齢者のスポーツライフ		
(2) スポーツ競技者への体制促進		
① 各スポーツ団体との連携による育成支援	B 一部取組が進んでいない項目があるものの、体育振興事業補助金の一つから引き続きそれを開催することは必要であるとともに、指導者に対する支援に努めることで、スポーツ指導者養成事業、大会開催に対する負担金の支出などの体制促進に取り組む。	日頃の練習の成果を発表する機会として各種大会の開催に努めることで、指導者に対する支援を継続して行うとともに、スポーツの知識の習得のための取組を後期計画において位置付けることとする。
② スポーツ指導者の養成と各種研修会の実施		
③ 大会の開催支援		
④ 競技種目の拡大		

基本目標2 “気軽”にスポーツができる環境を整えます

(1) スポーツにふれるきっかけづくり	B	ランナーズスペースの設置について ランナーズスペースの設置について未達成であるが、その他の項目については、各種スポーツ教室の開催や生駒山スカイウォーク、チャリロゴいこま、ECO-net生駒によるよこ道歩きのすすめなど、様々な取組を進めることができたと考えるため。	現計画において数値目標として掲げている週1回以上のスポーツの実施割合の増加に向け、生活習慣病予防等の視点からのきっかけづくりとともに、スポーツを身近に感じる企画・運営を後期計画においても取り組んでいくこととする。
(2) 情報提供体制の充実	C	市ホームページやtwitterによるスポーツ情報の提供やケーブルテレビの活用は行っているものの、各体育施設における情報コーナーの設置や定期的なスポーツに関する講演会等の開催までは至っていないため。	あらゆる媒体を通した情報の提供は継続して必要であり、特に体育施設指定管理者の情報発信力を積極的に活用していく必要がありますが、情報提供の取組は、スポーツにふれるきっかけづくりの面が大きいことから、項目そのものは整理を行う。 ※(1)スポーツにふれるきっかけづくりと統合する
(3) 相談窓口の設置	C	市ホームページから間合せや電話による問合せには随時対応しているものの、相談窓口の設置や電子メールによる相談体制の整備までは至っていないため。	引き続き指定管理者や総合型地域スポーツセンターと連携して相談体制の整備にあたるが、項目そのものは整理を行うこととする。 ※(1)スポーツにふれるきっかけづくりと統合する
(4) 人材の育成・活用	B	スポーツボランティア、生涯学習まちづくり人材バンク等に取り組むとともに、新たにスポーツリーダーバンク制度を創設し、一定の登録者数を確保する。 ① スポーツボランティアの募集と活動機会の提供 ② スポーツ経験者の活用や専門知識を持った人材の活用 ③ 高齢者の活用	引き続き地域で活躍できる人材を発掘・育成しつつ、課題となつていてる活動機会の提供についての検討を後期計画において行っていくことにより、スポーツをより身近に感じることができる環境を整備する。

(5) スポーツ関係諸機関との連携	
B	<p>市民体育大会や市民体育祭の開催など、健常分野との連携に取り組み、一定の成果は得られているが、民間スポーツクラブとの連携や新病院との連携を具体的に検討する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一般財団法人生駒市体育協会との事業連携 ② 関係各分野との事業連携 ③ 各スポーツ団体への支援 ④ 民間スポーツクラブとの連携 ⑤ 新病院との連携
C	<p>後期計画では、大学のみならず、市内の中・高等学校や地域との連携を図ることにより、より身近な地域でスポーツに親しみをもつことができる環境を整備していくこととするから、項目の整理を行ふ。 ※(5)スポーツ関係諸機関との連携と統合する</p> <ul style="list-style-type: none"> (6) 大学との連携 <ul style="list-style-type: none"> ① 官学の連携 ② 地域との連携 ③ 大学施設の利用・共有

基本目標3 “だれもが”利用しやすい施設環境を整備します

	(1) 体育施設の整備と充実	
B	<p>① 体育施設の整備・修繕・見直し</p> <p>② スポーツ用具・設備の設置及び活用</p> <p>③ 活用拠点としての施設整備</p> <p>④ コミュニケーションスペースの設置</p> <p>⑤ 救急体制の強化</p>	<p>継続的に体育施設の修繕やスポーツ用具の整備を行つてきたことに加え、生駒北スボーツセンターを新たに開設しました。また、一部の施設では、障がい者や高齢者も利用できるスポーツ用具等を設置しているが、全ての施設においため。</p>
	(2) 施設利用者の満足度向上	
B	<p>① 施設までの交通手段の確保</p> <p>② 施設利用手続の簡略化</p> <p>③ 広報の充実</p> <p>④ 施設利用時間の拡大</p> <p>⑤ 学校体育施設の利用拡大</p>	<p>一部取り組むことができなかつた取組もあるものの、冬季利用の試行やコミュニケーション運営システムを活用したインター共同運営システムを実現するなどして満足度向上に努めることとする。また、各指定管理者のホームページなどを活用して発信力の向上などにより、施設利用に関する情報報を更に充実させる。</p>

基本目標4 スポーツによる“地域の絆”を深めます

(1) 地域でのつながりづくり	B	地域での三世代交流イベントへの委員会派遣やファミリースポーツの集いの開催など、世代間交流が図れるイベントやスポート推進委員（旧体育指導員）の活動支援を推進した。	スポーツ推進委員の設置目的や活動内容をより多くの市民に知つてもらうためのPRをする上で、スポーツ推進委員の活動が地域に根付いたものとなるよう後期計画において検討する。
(2) 地域間連携の強化	B	地区別体力つくり補助金や市民体育祭などのイベントを開催するとともに、支援を通じた地域スポーツクラブの活動促進などを実現するが、後期計画においては項目について整理を行う。 ※(1)地域でのつながりづくりと統合する	スポーツを通じた地域の活性化にあたっては、地域同士やスポート関連団体同士の連携は不可欠であり、引き続き取組を進めたいとした地元団体間の連携促進などを実現するが、後期計画においては項目について整理を行う。 ※(1)地域でのつながりづくりと統合する
(3) 地域に根付いたスポーツクラブの育成	A	総合型地域スポーツクラブの設立・活動支援を積極的に展開した結果、目標を前倒しで達成し、総合型地域スポーツクラブと学校、行政との連携についても取り組むことことができた。また、スポーツリーダーパンク制度や総合型地域スポーツクラブの啓発活動事業やクラブマネジャーの育成などに取り組んだ。	後期計画においては、総合型地域スポーツクラブの設置が主な内容であつた設置を検討するなどとともに、地元企業や商店などの協力を得て、地域活性化に貢献するなどのクラブ活動の充実を図ることを強化する。 ※(1)地域でのつながりづくりと統合する
(4) “生駒スポーツランド”の醸成	B	地区別体力つくり補助金を活用し、各地域の特色を活かしたスポーツ活動の支援を行った。また、本市の緑豊かな自然や起伏の激しい地形を活かしたサイクリングイベントを開催した。	前期計画において、新たに“チャリロゲいこま”を開催し、今後も市独自のスポーツと位置付け、地元企業や商店などの協力を得て、地域活性化につながる取組を図つてていく。また、障がい者や高齢者や児童青少年などに取り組むことができるスポーツに親しむことができるニユースポーツを新たに検討・導入し、誰もがスポーツに親しむことができる環境を整備する。 ※(1)地域でのつながりづくりと統合する
① 地域の世代間交流を促すスポーツイベントの開催			
② 体育指導員による地域スポーツ活動の推進			
③ 体育指導員活動の充実			
① スポーツを通じた地域間交流の促進			
② 地域間の連携活動の促進			
③ スポーツ関連団体との連携促進			
④ 自治会との連携強化			
① 総合型地域スポーツクラブの育成			
② 学校開放事業の見直し			
③ リーダーの発掘・養成			
④ 学校や企業、その他団体との協力・連携			
① 地域に根付いているスポーツ活動への支援			
② ニュースポーツへの支援			
③ 生駒市独自のニュースポーツの開発			

基本目標5 心身ともに元気な“いこまつ子”を育みます

(1) エンジョイスポーツとの出会い		
① 子どもも向け教室の活用	B	生駒北スポーツセンターオープンイベントでのトッポアスリート連携事業や、ファミリースポーツの集いなど、日常生活におけるスポーツとの関わりを増やす取組を進めるとともに、スポーツ少年団を広報紙で紹介するなどの周知を図った。 早朝施設開放には取り組むことができなかった。
② 早朝施設開放の実施	B	最も身近な公共施設である小・中学校を拠点としてした地域のスポーツイベント開催支援や学校部活動への指導者派遣を引き続き実施し、学校と地域の連携強化に努めていく。
③ 家庭でのスポーツ活動の促進	B	総合型地域スポーツクラブによる学校部活動への指導者派遣や学校の協力によるスポーツイベントの周知などに積極的に取り組んだ。
④ スポーツ少年団に対する支援	B	総合型地域スポーツクラブによる学校部活動への指導者派遣やスクールボランティアの活動支援などの取り組みは十分ではなかった。
(2) 学校との連携・強化	C	学校体育への支援を通じて実施していくこととし、後期計画においては、項目の整地を行なう。 ※(2)学校との連携・強化と統合する
① 学校と地域の連携の強化	B	じた学校体育への支援を行なってきたが、新体力テストやスクールボランティアの活動支援などの取り組みは十分ではなかった。
② 授業終了後の取り組みの強化		
③ 地域からの参加形態		
(3) 学校体育への支援	B	ラグビーワールドカップ(2019)、東京オリンピック・パラリンピック(2020)、関西ワールドマスターズゲームズ(2021)の開催や、県内でのプロ等のトップアスリートによる講演会の開催や、競技レベルの向上や出場を目標に掲げ、トップアスリートとともに、市内からファーストコート賞の創設には至らなかつた。
① 新体力テスト	B	アスリートとつながりが持てる仕組みづくりまではできていないものの、アスリートによる講演会の開催や、スポーツ教室の実施などを行なった。
② 学校体育の受け皿づくり		
③ スクールボランティアの活動支援		
(4) 競技スポーツとのふれあい	B	アスリートとつながりが持てる仕組みづくりまではできていないものの、アスリートによる講演会の開催や、競技アスリートによる講演会の実施などを行なった。
① 競技スポーツ団体との連携	B	有名スポーツ選手による初心者向け体験教室の実施
② 競技スポーツ者による講演会の実施		
③ 有名スポーツ選手による初心者向け体験教室の実施		
④ ファーストコート賞の実施		

生駒市スポーツ振興基本計画後期計画の策定方針について（案）

1 後期計画の趣旨（前期計画策定以降の主要な変化点）

(1) スポーツ基本法の施行及びスポーツ庁の設置

平成23年3月の生駒市スポーツ振興基本計画の策定後、同年8月に国において、「スポーツ振興法」が50年ぶりに全面改正され、「スポーツ基本法」となり、新たにスポーツ振興に関する基本理念や地方公共団体の責務等が明記された。

国においては、本法に基づき平成24年3月に「スポーツ基本計画」が策定され、「年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が、関心、適正等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備すること」を基本的な政策課題として、7項目にわたる政策目標が設定されるとともに、奈良県においても、平成25年3月に「奈良県スポーツ推進計画」が策定され、「活き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」を目指す姿として、4つの基本戦略を柱として運動・スポーツの推進に取り組むとされている。

また、本法に基づき、平成27年10月には文部科学省の外局として「スポーツ庁」が設置され、スポーツ振興に対する組織体制の充実が図られたところである。

(2) 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることが決定し、2020年に向けて国民のスポーツに対する関心が高まることが期待されている中、開催中はもちろんのこと、オリンピック・パラリンピック開催前・後においても、これを契機とした様々な分野の活性化につなげていくことを目標として様々な施策等に取り組んでいくこととされている。（例：オリンピック・パラリンピックレガシー創出に向けた取組等）

(3) 市内総合型地域スポーツクラブの設立

策定当時は、多種目・多世代・多志向の3つの多様性を特徴とする総合型地域スポーツクラブが未設立であったが、現時点においては、「いこ増ッスルクラブ」、「プロストリート関西」、「リトルパイン総合型地域スポーツクラブ」の3クラブが設立され、地域に根ざした多種多様な活動が展開されているところであり、今後各クラブの活動のさらなる拡大や新たなクラブの設立等を行政として支援していくことが求められている。

(4) 「北部スポーツタウン構想」の策定及び生駒北スポーツセンターの開設

生駒市北部地域においては、児童や生徒数が減少し学校部活動なども縮小せざるを得ない状況の中、北部地域の活性化及びスポーツ振興基本計画を推進する施策の一つとして、「北部スポーツタウン構想」を策定し、本構想に基づき生駒北スポーツセンターを平成27年2月に開設するとともに、本センターを拠点とした様々な事業を展開していくことが期待されている。

2 前期計画の評価・検証や市民意識調査結果を踏まえた後期計画に盛り込むべき課題等

(1) 前期計画の評価・検証による課題

① 数値目標の達成度

指標名	策定期 (H21)	現状値 (H26・27)	目標値 (H26・27)	目標値 (H32)
週1回以上運動・スポーツを行う人(20歳以上)の割合	40.8%	42.8%	46.3%	50.0%
市内各種スポーツイベントの参加者数	17,292人	18,826人	19,146人	21,000人
総合型地域スポーツクラブの数	0クラブ	3クラブ	2クラブ	3クラブ
公共スポーツ施設利用人数	513,716人	882,070人	616,858人	720,000人
生駒市独自のニュースポーツの数	0競技	1競技	2競技	3競技
スポーツリーダーバンクの登録者数	0人	28人	15人	30人
週に1回以上運動・スポーツを行う子ども(小学生)の割合	64.2%	65.8%	73.7%	80.0%
スポーツ少年団の登録団体数	9団体	12団体	12団体	15団体

② 各施策における達成度（別紙参照）

主要な施策ごとに前期計画推進期間中の取組状況を踏まえて、【A.計画以上の成果が達成された施策】、【B.概ね計画通りの成果が得られた施策】、【C.計画通りの成果が得られなかつた施策】に区分して評価した。

(2) 市民意識調査結果の分析による課題

平成27年10月に実施した「スポーツに関する市民意識調査」の結果を分析し、課題を下記のとおり整理した。

- 気軽に運動やスポーツを行うことができる環境の整備・充実
- 地域での健康維持・増進に着目した高齢者向けの運動・スポーツ機会の提供
- 障がい者の運動・スポーツを行う環境づくり
- 総合型地域スポーツクラブの活動内容等の周知と育成強化
- スポーツに関する情報提供体制の充実と指導者的人材育成・活用

3 策定方針（案）

後期計画の策定においては、前期計画における基本理念（スローガン）や計画体系をベースとしつつ、下記の項目について新たに追加・変更を行った上で、上記の1及び2の社会情勢等の変化や前期計画における課題等を踏まえて、後期計画を策定することとする。

- ① スポーツ基本法、スポーツ基本計画、奈良県スポーツ推進計画及び生駒市教育大綱を踏まえた計画策定
- ② 総合型地域スポーツクラブの認知度向上・育成強化
- ③ 子ども、高齢者、障がい者の運動・スポーツ活動支援

なお、名称について、前期計画策定後に制定された「スポーツ基本法」の趣旨等に合致したものとするため、後期計画については、「生駒市スポーツ推進計画」に名称を改めることとする。

障がい者団体、障がい者スポーツ団体等に対する
障がい者スポーツ推進（活動）に関する意見聴取内容（案）

・目的

生駒市スポーツ振興基本計画後期計画策定に伴い、中間見直しを図る中で、
障がい者スポーツ推進に関する内容を充実させるため、関係団体・関係機
関等への意見聴取を行う

・意見聴取先

身体、知的、精神障がい者当事会・家族会等
障がい者支援団体（社会福祉法人等）
障がい者スポーツ協会等
府内関係課

・意見聴取の方法

上記の各団体等への直接聞き取り

【現状把握】

[共通]

- ・運動機会の有無
- ・障がい者スポーツの環境整備（市民意識調査 P11 間 35）
- ・障がい者がスポーツに親しむことができる環境
(市民意識調査 P11 間 36)

[運動機会がある場合]

- ・運動頻度
- ・実施内容（プログラム）
- ・実施対象、場所、費用
- ・送迎、介助
- ・指導（運営）スタッフ
- ・サポート（サポート団体、ボランティアなど）
- ・安全配慮

[運動機会がない場合]

- ・理由

【希望する運動（遊び）】

- ・実施内容（プログラム）
- ・実施対象、場所、費用
- ・送迎、介助
- ・指導（運営）スタッフ
- ・サポート（サポート団体、ボランティアなど）
- ・安全配慮

【その他】

- ・どの様にすれば、運動をする機会が増えるのか？
- ・どの様にすれば、運動できるのか？